

平成 27 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成 27 年 11 月
福岡市教育委員会

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象とする児童生徒

(小学校調査)

- ・小学校第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年

(中学校調査)

- ・中学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年

(3) 調査事項及び手法

①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語，算数・数学，理科〕

国語，算数・数学，理科はそれぞれ「A主に知識に関する問題」と「B主に活用に関する問題」を出題。（理科は，AとBを一体的に出題）

イ 質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

(4) 調査の方式

悉皆調査

(5) 調査日時

平成 27 年 4 月 21 日（火）

(小学校調査)

1 時 限 目	2 時 限 目	3 時 限 目	4 時 限 目	
国語 A，算数 A (各 20 分)	国語 B (40 分)	算数 B (40 分)	理科 (40 分)	児童質問紙 (20 分程度)

(中学校調査)

1 時 限 目	2 時 限 目	3 時 限 目	4 時 限 目	5 時 限 目	
国語 A (45 分)	国語 B (45 分)	数学 A (45 分)	数学 B (45 分)	理科 (45 分)	生徒質問紙 (20 分程度)

(6) 集計児童生徒・学校数

①集計基準

児童生徒に対する調査について、平成 27 年 4 月 21 日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計。学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計。

②集計児童生徒数（4 月 21 日に調査を実施した児童生徒数）

（小学校第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年）

国語 A	12,369 人
国語 B	12,370 人
算数 A	12,370 人
算数 B	12,368 人
理 科	12,370 人

（中学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年）

国語 A	11,424 人
国語 B	11,424 人
算数 A	11,428 人
算数 B	11,424 人
理 科	11,420 人

③集計学校数

（小学校第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年）

小学校	1 4 1 校（志賀島小と小呂小は，該当児童がない為，未実施）
特別支援学校	1 校

（中学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年）

中学校	6 9 校
特別支援学校	3 校

2. 調査結果と考察

(1) 調査結果と考察の考え方

本調査結果については、本市における調査結果を全国及び福岡県と比較して示すとともに、本市の過去の調査結果をもとにした経年変化からも本市の学力の状況について考察を行う。

また、教科に関する調査結果をもとに、その要因を児童生徒に対する質問紙調査や学校に対する質問紙調査の結果からも考察を行う。

(2) 教科に関する調査結果と全体考察

①教科に関する調査結果の概況

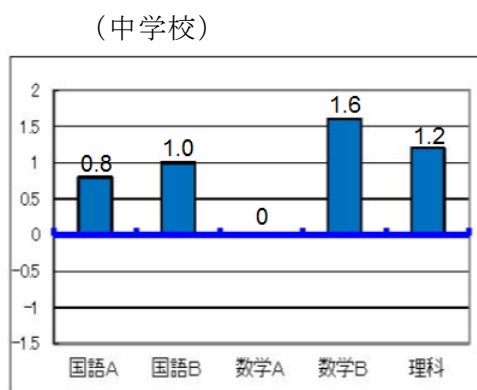
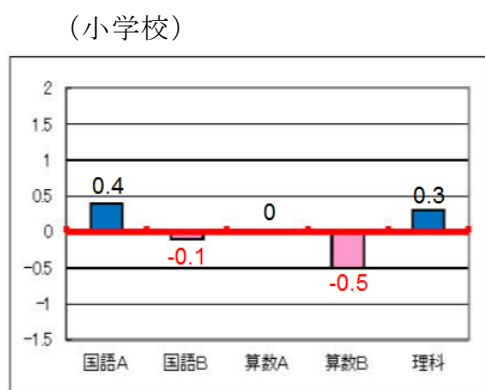
※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

小学校調査		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
福岡市(市立)	平均正答率	70.4	65.3	75.2	44.5	61.1
福岡県(公立)	平均正答率	69.8	65.1	74.7	44.2	59.5
全国(公立)	平均正答率	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
福岡県との比較		+0.6	+0.2	+0.5	+0.3	+0.6
全国との比較		+0.4	-0.1	0	-0.5	+0.3

中学校調査		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
福岡市(市立)	平均正答率	76.6	66.8	64.4	43.2	54.2
福岡県(公立)	平均正答率	74.6	64.5	62.2	39.8	51.3
全 国(公立)	平均正答率	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
福岡県との比較		+2.0	+2.3	+2.2	+3.4	+2.9
全国との比較		+0.8	+1.0	0	+1.6	+1.2

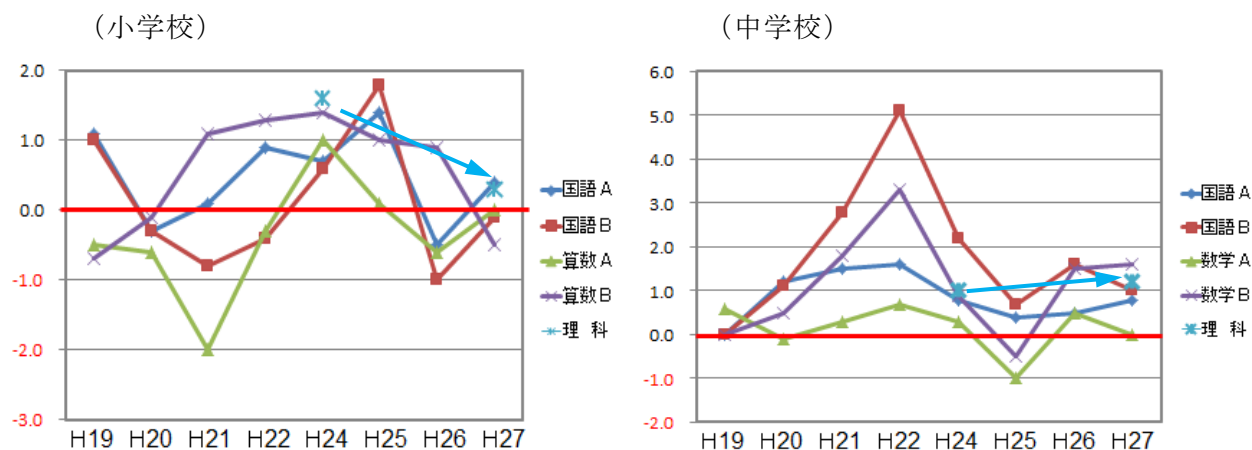
- ◆小学校の国語 A と理科、及び中学校の国語 A、B と数学 B、理科の 6 分類で全国平均を上回るが、小学校の国語 B と算数 B は全国平均を下回る。

全国と福岡市の平均正答率の比較



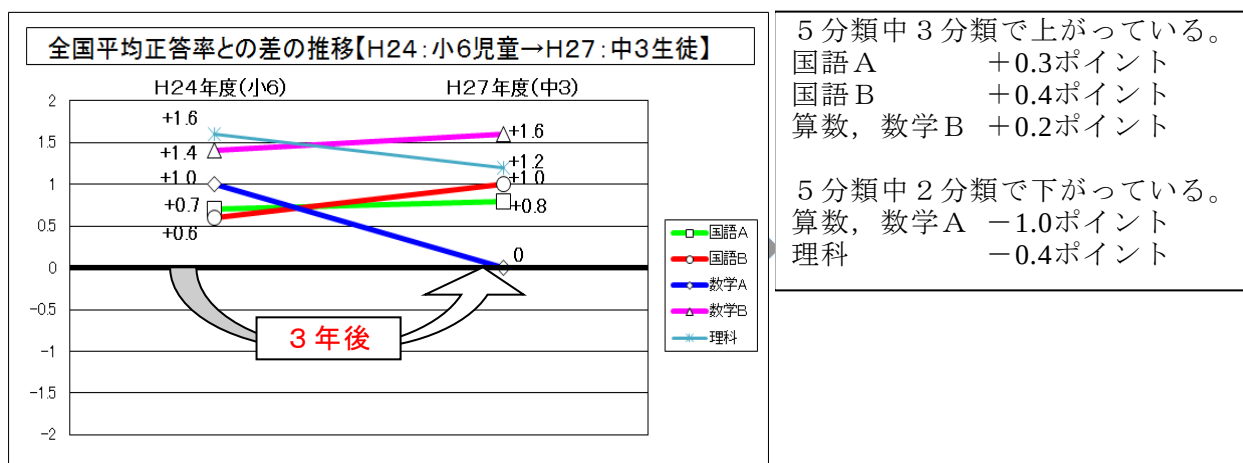
※全国平均正答率を 0 とし、福岡市の平均正答率と比較

②分類ごとに見た全国と福岡市の平均正答率の経年比較（平成 19 年度～平成 27 年度）



- (小学校)
- ◆平成26年度は全ての分類で平均正答率が下がったが、今年度は3分類で上がっている。算数Bは昨年度より下がっている。理科も前回（平成24年度）と比べ、下がっている。
- (中学校)
- ◆平成 26 年度は全ての分類で平均正答率が上がったが、今年度は3分類でさらに上がり、2分類で下がっている。

③中学3年生徒の小学校6年生時（平成 24 年度）との経年比較



- ◆小学校6年生時（平成24年度）においては、全ての分類で全国平均を上回っていた。3年後の中学校3年生時（今年度）の調査においては、±1ポイント内での変化ではあるが、さらに3分類で上がり、2分類で下がっている。全国平均との比較では4分類で上回り、1分類で同等である。

(学校質問紙から) (肯定的回答：4段階中の上位2段階の合計)

問「平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

H24(小6) 92.4% (全国比+1.2) ⇒ H27(中3) 90.3% (全国比-2.9)

(児童・生徒質問紙から) (肯定的回答：4段階中の上位2段階の合計)

問「国語の勉強は好きですか」

H24(小6) 60.7% (全国比-2.7) ⇒ H27(中3) 61.3% (全国比+0.8)

問「算数(数学)の授業で、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」

H24(小6) 79.2% (全国比-1.5) ⇒ H27(中3) 70.3% (全国比+0.2)

問「理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の結果を立てていますか」

H24(小6) 69.1% (全国比0) ⇒ H27(中3) 51.3% (全国比-3.7)

◆学校質問紙から、「自校の分析結果について調査対象学年・教科だけでなく学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」への回答が全国平均との差が、+1.2から-2.9に下がっている。

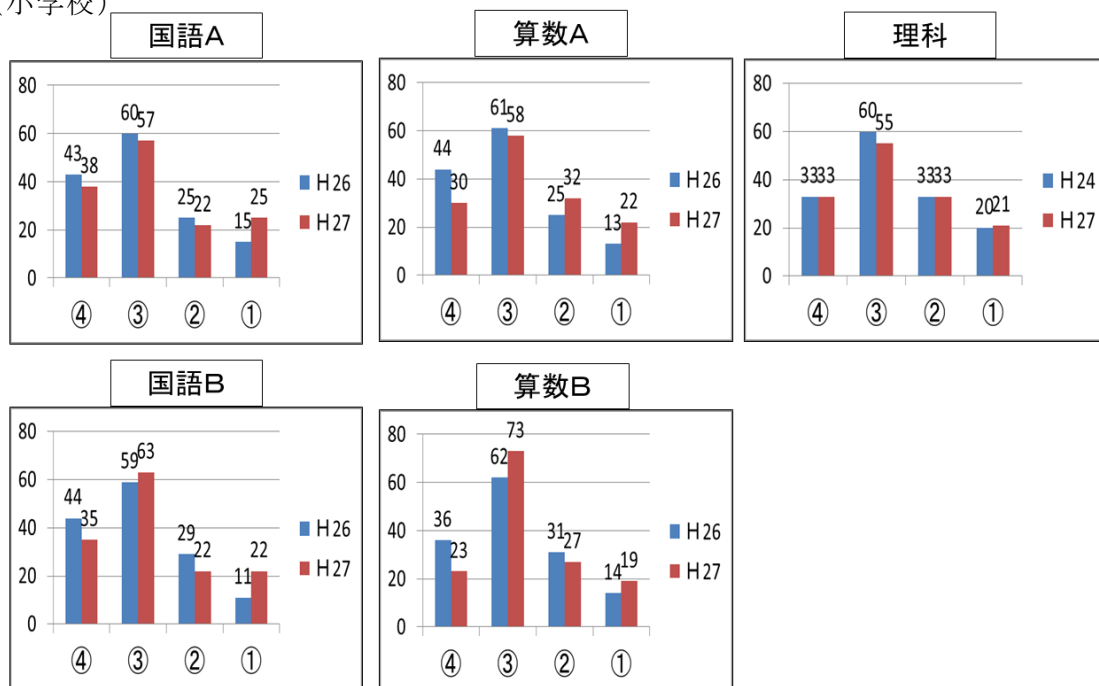
◆児童生徒質問紙から、「国語は好きですか」「算数(数学)の授業で、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」への回答において、上がっている。

また、「理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の結果を立てていますか」への回答において、下がっている。

⑤ 4段階の各学校群ごとの校数（昨年比）

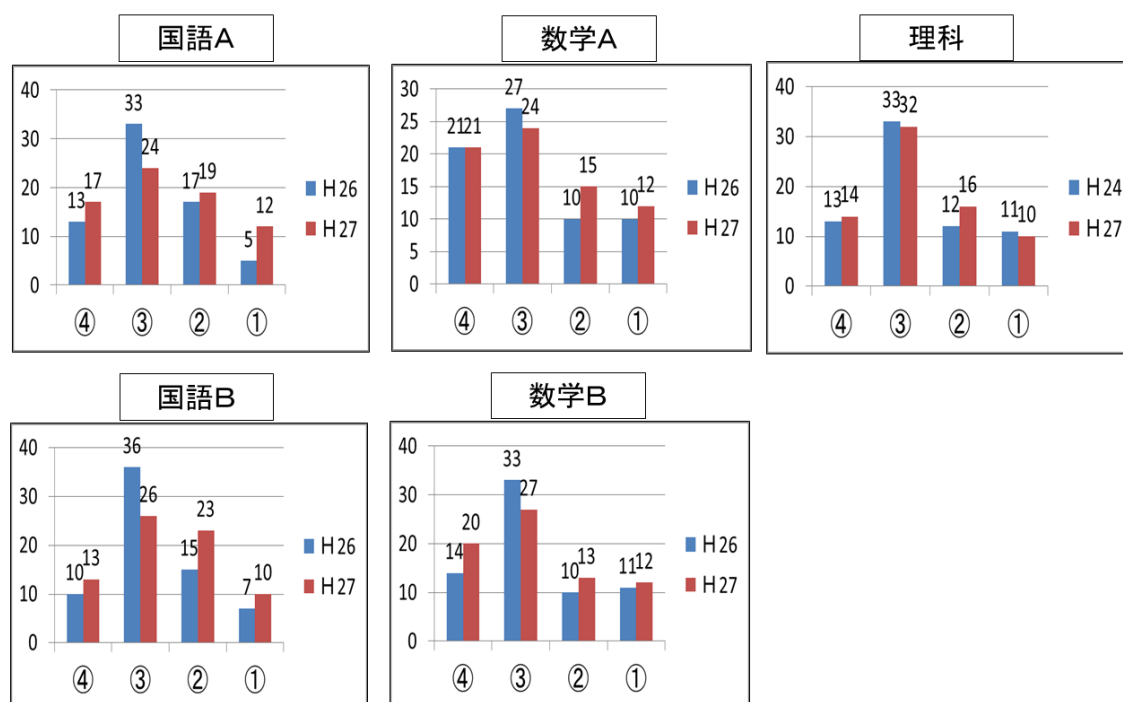
※ ①「上回っている」 ②「やや上回っている」 ③「同程度である」 ④「努力を要する」の4段階で学校群を示す。

（小学校）



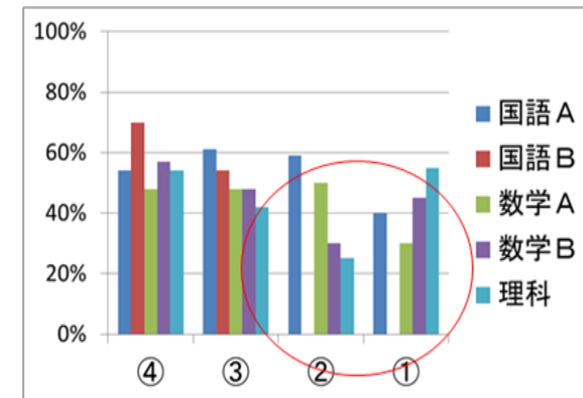
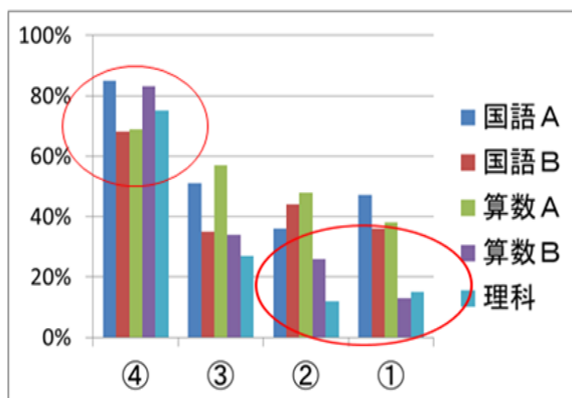
◆ 小学校では、全分類において「①上回っている」と公表した学校の校数が増え、※理科以外の分類において「④努力を要する」と公表した学校の校数が減っている。全体として、向上傾向にある。（※理科は、平成24年度との比較）

（中学校）



◆ 中学校では「①上回っている」や「②やや上回っている」と公表した学校の校数が増えている一方で、「④努力を要する」と公表した学校の校数も増えている。

⑥平成 26 年度の学校群ごとの平均正答率が向上した学校数の割合
(小学校) (中学校)



集計方法

- ◆平成26年度の公表に合わせ，小中学校を次の4つの学校群にする。
- ◆学校群ごとに，昨年の自校正答率の全国平均差に比べ，本年度向上した学校の割合を出す。

(参考)

平成26年度の公表

- ①「上回っている」と公表した学校群
- ②「やや上回っている」と公表した学校群
- ③「同程度である」と公表した学校群
- ④「努力を要する」と公表した学校群

平成27年度の結果

26年度の自校の全国比より向上した学校の割合

〈例〉①の学校群数 21校
昨年度より向上した学校数 15校
15校/21校=71.4%

- ◆小学校では，5分類すべてにおいて，26年度に「①上回っている」や「②やや上回っている」と公表した学校で向上した学校数の割合が低く，「③同程度である」や「④努力を要する」と公表した学校で向上した学校数の割合が高い。特に※小学校理科や算数Bにおいて「①上回っている」や「②やや上回っている」と公表した学校で向上した学校数の割合が低くなっているところが課題である。

(※理科は，平成24年度との比較)

- ◆中学校では，5分類全てにおいて26年度に「③同程度である」や「④努力を要する」と公表した学校で向上した学校数の割合が高いが，「①上回っている」や「②やや上回っている」と公表した学校において，国語Bの伸びがないことが課題である。

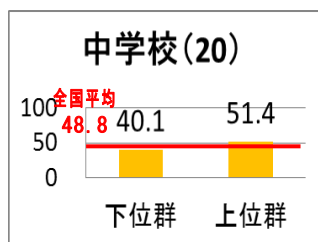
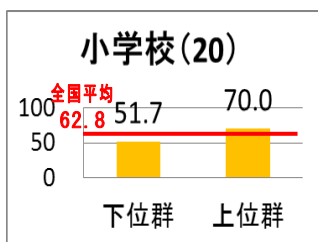
- ◆小・中学校共通の傾向として，26年度に「③同程度である」や「④努力を要する」と公表した学校は向上傾向であるが，「①上回っている」や「②やや上回っている」と公表した学校において向上した学校数の割合が低い。一人ひとりの実態に応じたきめ細かな取組が必要である。

⑦学校群と学校・児童生徒質問紙の相関

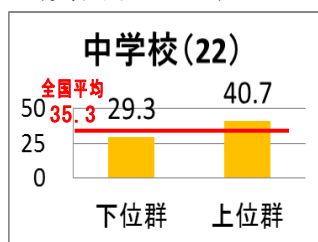
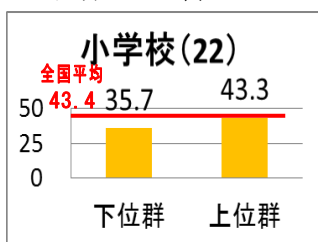
※「①上回っている」「④努力を要する」と公表した学校から、それぞれ無作為に10校を抽出

※数値は、肯定的な回答（4段階中の上位2段階の合計値）の平均

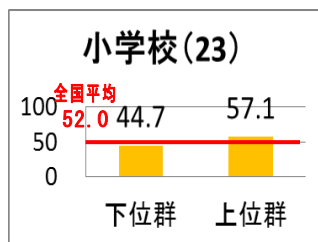
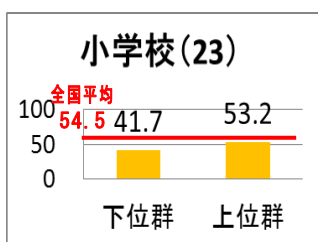
「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」（質問紙項目 20）



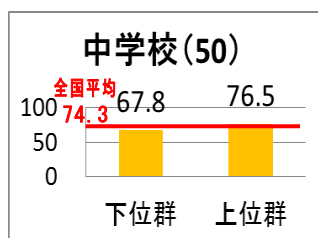
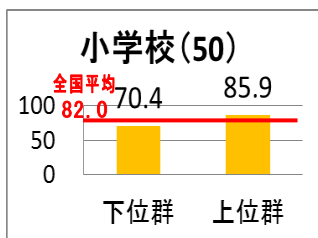
「家で、学校の授業の予習をしていますか」（質問項目 22）



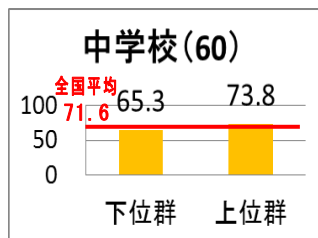
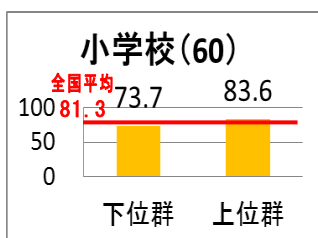
「家で、学校の授業の復習をしていますか」（質問項目 23）



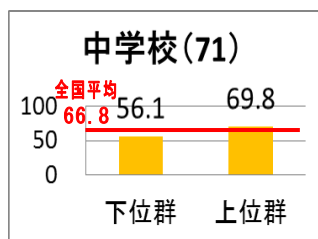
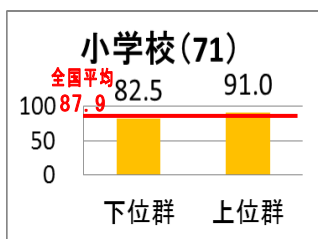
「国語の授業の内容はよく分かりますか」（質問項目 50）



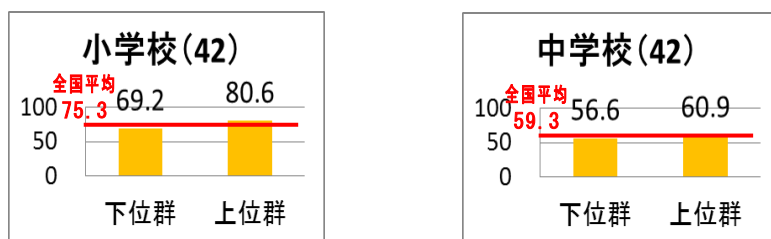
「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」（質問項目 60）



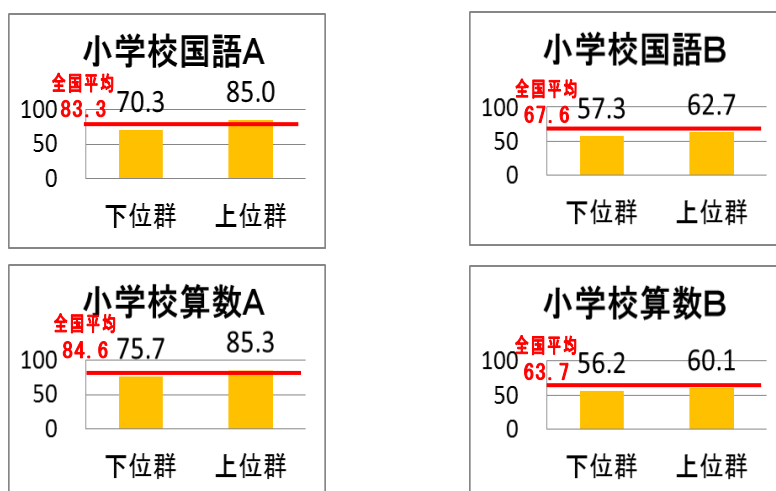
「理科の授業の内容はよく分かりますか」（質問項目 71）



「前学年のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」（質問項目 42）



「調査問題の解答時間は十分でしたか」（小学校）



- ◆「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の設問に対する回答で、「④努力を要する」と公表した学校は「①上回っている」と公表した学校に比べ、小学校で約18ポイント、中学校で約11ポイント低くなっている。
- ◆国語・算数（数学）について「授業の内容はよく分かりますか」の設問に対し、「④努力を要する」と公表した学校の児童生徒で「わかる」と回答した児童生徒は、平均で約70%であり、「①上回っている」と公表した学校に比べ10ポイント以上低い。中学校理科については、「④努力を要する」と公表した学校で「わかる」と回答した生徒は60%以下である。
- ◆「前学年のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」の設問に対する回答で、「④努力を要する」と公表した学校は「①上回っている」と公表した学校に比べ、小学校で約11ポイント低くなっている。
- ◆「調査問題の解答時間は十分でしたか」という設問に対し、小学校で「十分だった」と回答している児童が少ない。A問題については、「④努力を要する」と公表した学校で全国平均より10ポイント以上下回り、B問題については、「①上回っている」「④努力を要する」の公表に関わらず、全国平均を下回っている。

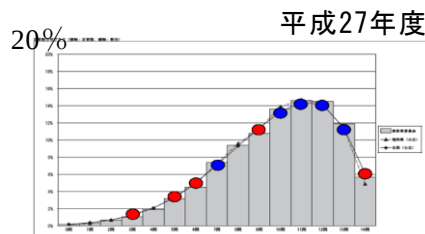
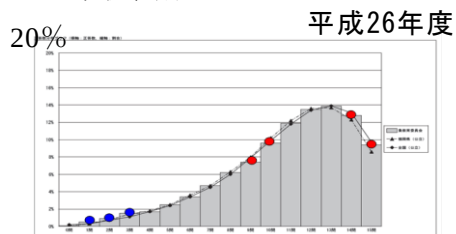
⑧ 平成 26 年度，平成 27 年度の分類別正答率分布（全国・県との比較）

横軸：正答数 縦軸：割合

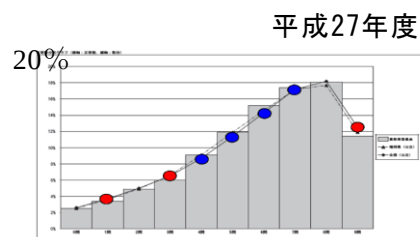
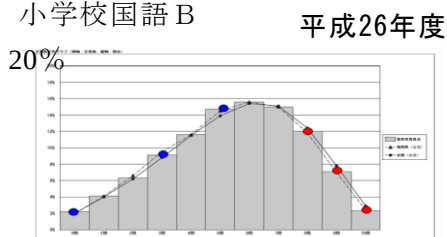
全国正答率分布より ● 上回っている ● 下回っている

福岡市 — 福岡県 — 全国 —

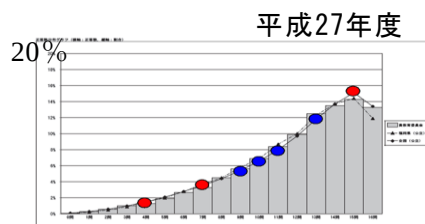
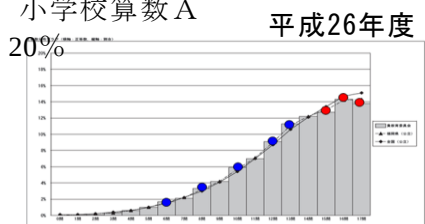
小学校国語 A



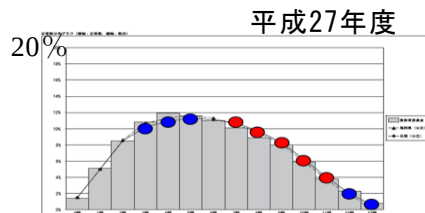
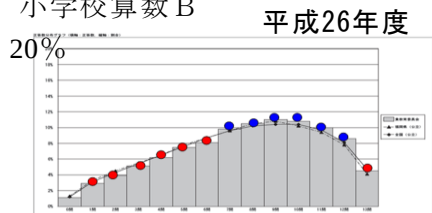
小学校国語 B



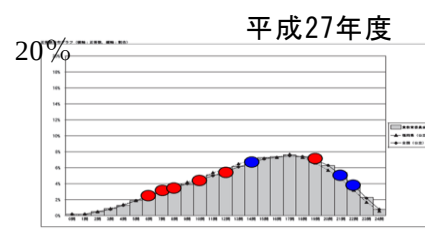
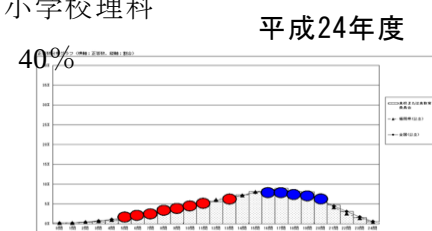
小学校算数 A



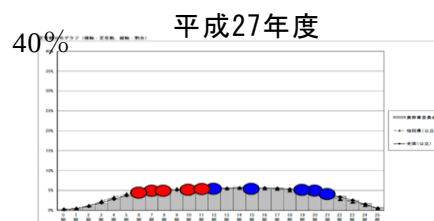
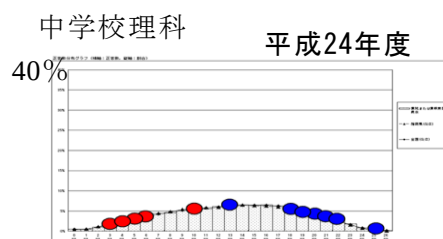
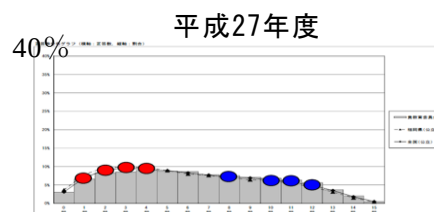
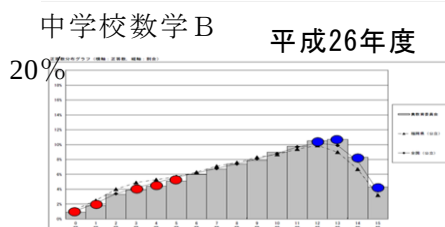
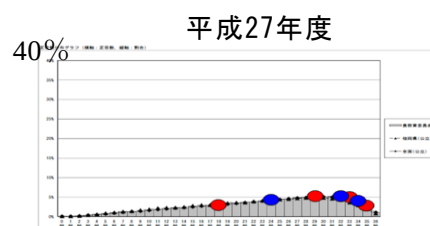
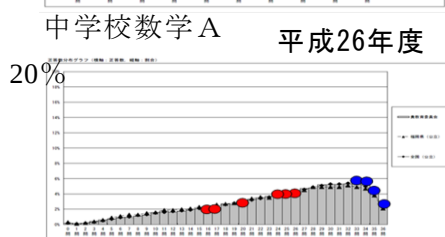
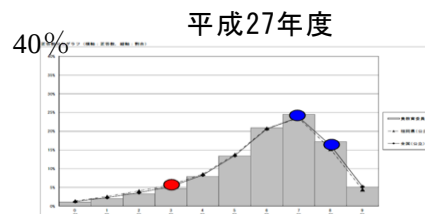
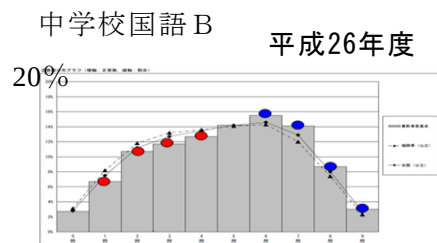
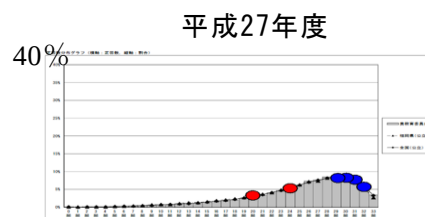
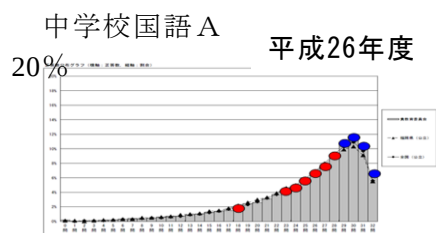
小学校算数 B



小学校理科



- ◆国語 A は，分布に大きな変化はないが，上位層の割合が全国の割合を上回っている。
国語 B は，上位層の割合が高くなっており，下位層の割合が全国の割合を下回っている。
- ◆算数 A は，分布に大きな変化はないが，下位層の割合が全国の割合を下回っている。
算数 B は，下位層の割合が高くなっている。中位層の割合が全国の割合を下回っているが，上位層の割合は全国の割合を上回っている。
- ◆理科は，分布に大きな変化はないが，上位層の割合が全国の割合を上回っている。



- ◆国語 A は、分布に大きな変化はないが、上位層の割合が全国の割合を上回っている。国語 B は、上位層の割合が高くなっており、下位層の割合が全国の割合を下回っている。
- ◆数学 A は、分布に大きな変化はないが、上位層の割合が全国の割合を上回っている。数学 B は、下位層の割合が高くなっており、中位層の割合が全国の割合を上回っている。
- ◆理科は、分布に大きな変化はないが、中位層の割合が全国の割合を上回っている。

(3) 小学校国語に関する調査結果について

①観点・領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている

区分（小学校国語）	A（主に「知識・技能」の正答率）		B（主に「活用」の正答率）	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	70.4	70.0	65.3	65.4
国語への関心・意欲・態度			53.6	55.4
話すこと・聞くこと（能力）	60.7	53.0		
書くこと（能力）	86.7	86.0	60.6	61.1
読むこと（能力）	54.6	55.2	67.3	68.1
言語についての知識・理解・技能	77.0	77.2		

◆観点・領域ごとでは、「話す・聞く能力」で全国平均正答率を上回っているが、国語A、Bともに「読む能力」で全国平均正答率を下回っている。

◆国語Bは、すべての観点・領域で、全国平均正答率を下回っている。

②平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	漢字を読む（信念）	97.7	96.0	1.7
	漢字を読む（招く）	97.5	97.5	0
国語B	中心となる語や文を捉える	87.1	86.0	1.1
	文章の要旨をまとめて書く	79.0	78.4	0.6

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	引用している言葉を書き抜く	16.5	19.8	-3.3
	文の中における主語を捉える	49.7	53.1	-3.4
国語B	内容を整理して記事を書く	34.4	34.7	-0.3
	文と図を関連付けて考えを書く	40.9	41.6	-0.7

③児童と学校に対する質問紙調査の結果から

(児童に対する質問紙調査結果)

問	「国語の勉強は好きですか」	58.7% (全国比 -2.4)
問	「国語の授業の内容はよくわかりますか」	79.2% (全国比 -2.8)
問	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (国語A)	78.3% (全国比 -5.0)
問	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (国語B)	58.1% (全国比 -9.5)

(学校に対する質問紙調査結果)

問	「前年度までに、目的や相手に応じて話たり聞いたりする授業を行いましたか」	81.5% (全国比 -7.8)
問	「前年度までに書く習慣をつける授業を行いましたか」	85.1% (全国比 -6.8)
問	「様々な文章を読む習慣をつける授業を行いましたか」	72.4% (全国比 -12.2)

◆児童質問紙調査では、「授業の内容はよくわかる」と答えた児童の割合が全国平均を下回っている。また、国語A、Bともに「調査問題の解答時間は十分だった」と答えた児童の割合が全国平均を下回っている。

◆学校質問紙調査では、「様々な文章を読む習慣をつける授業を行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく下回っている。

※小学校国語の正答率が低かった問題 (国語B)

(条件)

- 「リコーダー①」「小だいこ」「木きん」という三つの言葉を使って書くこと。
- 「木きん」の決め方については、「文章」の の中で説明している、決めるときに大切なことを取り上げて書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、八十文字以上、百字以内で書くこと。なお、「しかし」から始まる書き出しの言葉は字数にふくむ。

(問い)

森山さんのグループでは、「希望者が一人の場合には、その人がその楽器に決まる」ということを確認しています。グループの五人は、楽器の分担をどのように決めていくことになりましたか。

【楽器の分担図】をもとにし、次の条件に合わせて説明しましょう。

(合奏で使う楽器)

【楽器の分担図】 楽器一つに対して一人が担当します。

(グループの五人)

三 森山さんの学級では、音楽の学習でグループごとに合奏することになりました。そこで、森山さんのグループの五人は、それぞれの希望をもとに、担当する楽器を決めることにしました。次の【楽器の分担図】は、「文章」の内容を参考に五人の希望を整理したものです。あとの(問い)に答えましょう。

(4) 小学校算数における結果について

①領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

区分（小学校算数）	A（主に「知識・技能」の正答率）		B（主に「活用」の正答率）	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	75.2	75.2	44.5	45.0
数と計算	80.3	80.1	42.6	42.4
量と測定	71.2	71.3	41.0	41.7
図形	64.7	64.5	44.5	45.6
数量関係	84.5	84.9	43.6	43.0

②観点ごとの調査結果

区分（小学校算数）	A（主に「知識・技能」の正答率）		B（主に「活用」の正答率）	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	75.2	75.2	44.5	45.0
算数への関心・意欲・態度				
数学的な考え方			34.9	35.3
数量や図形についての技能	76.9	77.2	58.0	58.7
数量や図形についての知識・理解	73.9	73.6	74.3	74.9

◆領域ごとでは、算数Aの「量と測定」「数量関係」で全国平均正答率を下回っている。

算数Bは、「量と測定」「図形」で全国平均正答率を下回っている。

◆観点ごとでは、算数Aの「知識・理解」で全国平均正答率を上回っているが、算数Bを含めたその他の観点においては、すべて全国平均正答率を下回っている。

③平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
算数A	28 + 72の計算	98.2	98.2	0
	数量関係について式と図を関連付ける	86.4	88.1	-1.7
算数B	平行四辺形の性質	95.6	95.2	0.4
	単位量の大きさを用いた計算	66.8	64.8	2.0

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
算数A	円の性質	52.5	52.5	0
	分度器を使った角度の読み取り	56.8	58.0	-1.2
算数B	面積の分割についての説明	12.4	12.4	0
	割合の基準量を求める	15.2	13.1	2.1

④児童と学校に対する質問紙調査の結果から

(児童に対する質問紙調査結果)

問	「算数の勉強は好きですか」	64.9% (全国比 -1.7)
問	「算数の授業の内容はよくわかりますか」	78.5% (全国比 -2.5)
問	「算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」	77.5% (全国比 -2.1)
問	「調査問題の解答時間は十分でしたか」 (算数B)	55.8% (全国比 -7.9)

(学校に対する質問紙調査結果)

問	「前年度までに、発展的な学習を行いましたか」	41.9% (全国比 -19.7)
問	「様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導を行いましたか」	85.8% (全国比 -8.5)
問	「ティームティーチングによる指導を行いましたか」	44.7% (全国比 11.8)

◆児童質問紙調査では、「授業の内容はよくわかる」と答えた児童の割合が全国平均を下回り、「調査問題の回答時間は十分だった(算数B)」と答えた児童の割合が全国平均を下回っている。

◆学校質問紙調査では、「ティームティーチングによる指導は行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく上回っているが、「前年度までに、発展的な学習を行った」と回答した学校の割合は全国平均を大きく下回っている。

※小学校算数の正答率が低かった問題(算数B)

次に、**図3**のように、2つの点を通る直線を引きます。すると、2つの長方形を組み合わせた図形は、**図4**のように、**オ**と**カ**に分けることができます。

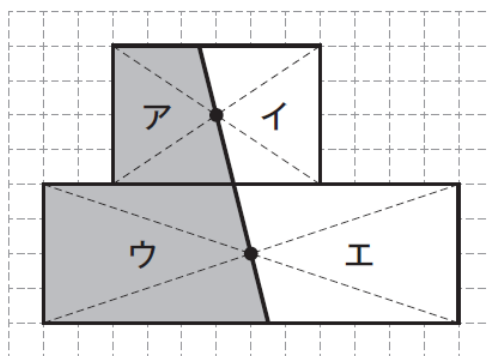


図3

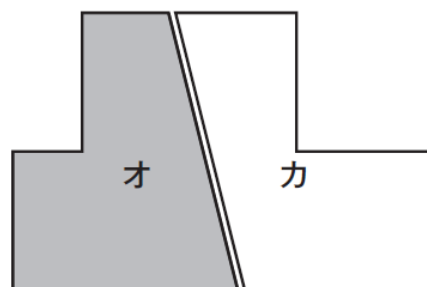


図4

このようにすると、**オ**と**カ**の面積は等しくなります。なぜ、**オ**と**カ**の面積が等しくなるのですか。

そのわけを、言葉や数、**ア**から**カ**までの記号を使って書きましょう。

(5) 小学校理科における結果について

① 枠組みごとの結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

区分（小学校理科）	福岡市	全国
教科全体	61.1	60.8
主として「知識」に関する問題	61.4	61.3
主として「活用」に関する問題	61.0	60.5

② 領域ごとの調査結果

区分（小学校理科）	福岡市	全国
教科全体	61.1	60.8
A 区分	物質	58.8
	エネルギー	66.1
B 区分	生命	60.3
	地球	57.7

③ 観点ごとの調査結果

区分（小学校理科）	福岡市	全国
教科全体	61.1	60.8
自然事象への関心・意欲・態度		
科学的な思考・表現	61.0	60.5
観察・実験の技能	55.8	55.5
自然事象についての知識・理解	68.3	68.6

◆ 枠組みごとでは、「知識」「活用」とともに、全国平均正答率を上回っている。

◆ 領域ごとでは、A 区分の「物質」「エネルギー」で全国平均正答率を上回っているが、B 区分の「生命」「地球」で全国平均正答率を下回っている。

◆ 観点ごとでは、「思考・表現」「技能」で全国平均正答率を上回っているが、「自然事象についての知識・理解」は全国平均正答率を下回っている。

④ 平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
理科	水蒸気についての理解	83.5	81.9	1.6
	地面の様子と気温の変化の関係	83.5	84.2	-0.7

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
理科	グラフをもとにした考察の説明	29.7	28.8	0.9
	顕微鏡の適切な操作方法	32.9	37.9	-5.0

⑤児童と学校に対する質問紙調査の結果から

(児童に対する質問紙調査結果)

問 「理科の授業の内容はよくわかりますか」	86.9% (全国比 -1.0)
問 「観察実験の進め方や考え方が間違っていないか振り返って考えていますか」	65.0% (全国比 -2.1)
問 「普段の生活で活用できないか考えていますか」	66.7% (全国比 -2.6)

(学校に対する質問紙調査結果)

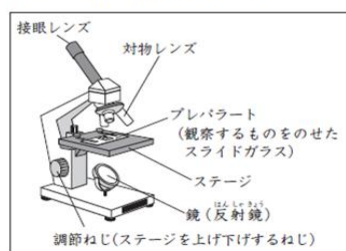
問 「前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか」	72.4% (全国比 -7.6)
問 「コンピュータなどの情報通信技術を活用した授業を行いましたか」	39.0% (全国比 -22.5)
問 「観察や実験におけるカードやノートへの記録・記述に関する指導を行いましたか」	87.9% (全国比 -4.2)
問 「発展的な学習指導を行いましたか」	35.5% (全国比 -11.7)
問 「長期休業期間中に自由研究や課題研究などの家庭学習の課題を与えましたか」	89.3% (全国比 5.0)

◆児童質問紙では、「理科の授業の内容はわかる」「観察実験の進め方や考え方がまちがっていないか振り返って考えている」「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」と答えた児童の割合が全国平均を下回っている。

◆学校質問紙調査では、「コンピュータなどを活用した授業を行った」「発展的な学習指導を行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく下回っている。「長期休業期間中の自由研究等」を実施していると回答した学校の割合は全国平均を上回っている。

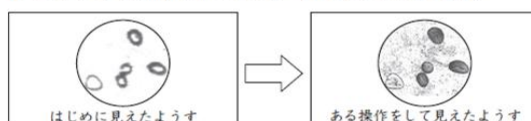
※小学校理科の正答率が低かった問題（理科）

- (3) よし子さんは、インゲンマメの子葉の中にある養分を調べるために、
下の図のような器具を使って観察することになりました。
よし子さんが使った器具の名前を書きましょう。



よし子さんが使った器具

- (4) (3)の器具を使って観察したところ、はじめは左下の図のように明るいのにぼやけて見えました。そこで、器具を操作したところ、右下の図のようにはっきり見えるようになりました。どのような操作をしましたか。下の
1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 鏡の向きを調節した。
- 2 調節ねじを回した。
- 3 プレパラートを動かした。
- 4 対物レンズをちがう倍率のものにした。

(6) 中学校国語における結果について

①観点・領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

区分（中学校国語）	A（主に「知識」）の正答率		B（主に「活用」）の正答率	
	福岡市	全国（公立）	福岡市	全国（公立）
教科全体	76.6	75.8	66.8	65.8
国語への関心・意欲・態度			37.4	36.7
話すこと・聞くこと	81.2	79.7	72.5	72.2
書くこと	75.3	73.6	37.4	36.7
読むこと	88.0	86.1	63.9	62.6
言語についての知識・理解・技能	73.0	72.9		

◆国語A，B，観点・領域の各項目すべてで全国平均正答率を上回る。

◆観点・領域ごとでは、特に「読むこと」で国語A，Bともに、全国平均正答率を上回っている。

②平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	漢字を読む（載る）	97.5	97.2	0.3
	漢字を選択する（気象）	98.0	97.6	0.4
国語B	「おなきなさるな」の翻訳の効果選択	89.5	88.6	0.9
	フリップ作成のポイント選択	88.8	87.3	1.5

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
国語A	「青き」の品詞として適切なものを選択	35.0	33.7	1.3
	語句選択「たなびく雲」	46.3	49.0	-2.7
国語B	資料をもとに自分の考えを書く	23.7	23.0	0.7
	構成や根拠を踏まえ、自分の考えを書く	32.4	31.1	1.3

③生徒と学校に対する質問紙調査の結果から

(生徒に対する質問紙調査結果)

問	「国語の授業の内容はよくわかりますか」	72.7% (全国比 -1.6)
問	「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」	62.9% (全国比 -1.5)
問	「目的に応じて資料を読み、自分の考えを書いたりしていますか」	52.8% (全国比 -6.4)
問	「発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」	49.0% (全国比 -5.0)
問	「国語の勉強は大切だと思いますか」	92.6% (全国比 2.7)
問	「学習したことが将来役に立つと思いますか」	88.0% (全国比 3.8)

(学校に対する質問紙調査結果)

問	「前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか」	80.6% (全国比 -2.6)
問	「補充的な学習の指導を行いましたか」	73.6% (全国比 -4.6)
問	「発展的な学習の指導を行いましたか」	48.6% (全国比 -12.2)

◆生徒質問紙調査では、「国語の勉強が大切だ」「学習したことが将来役に立つ」と答えた生徒の割合が全国平均を上回っている。しかし、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている」と回答した生徒の割合が全国平均を下回っている。

◆学校質問紙調査では、「発展的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく下回っている。

※中学校国語の正答率が低かった問題（国語B）

条件1 「フット」の内容と結び付けて、理由を具体的に書くこと。

条件2 五十文字以上、八十文字以内で書くこと。

森田さんは、聞き手に一層興味をもってもらうために、発表の中で、オカリナを実際に演奏することにしました。あなたなら、どのタイミングで演奏しますか。次の〈演奏するタイミング〉のA、Bから一つ選び（どちらの〈演奏するタイミング〉を選んでもおかまいません）、その〈演奏するタイミング〉を選んだ理由を、あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈演奏するタイミング〉

A	「フリップ」②の説明のとき
B	「フリップ」③の説明のとき

※中学校国語の正答率が低かった問題（国語B）

【フリップ】

① **オカリナとは**

- ハトに似た形の笛
- イタリア生まれ

イタリア語では「小さなガチョウ」

② **オカリナの特徴**

吹き口？ 音色は？

材質は？ 指穴の数は？

③ **気軽に楽しめる**

- リコーダーと似た指使い
- 持ち運びやすい大きさ
- 簡単な曲ならすぐ吹ける!!

【ノート】

発表の流れ	その他の情報 ※ 状況に応じて使用する
■ 聞き手を見てから話し始める	
○ 始めの言葉	
① ○ オカリナはハトの形に似た楽器。	
○ イタリアで生まれ世界に広まった。	
○ イタリア語では、「小さなガチョウ」という意味である。	※ ガチョウの頭の形に似ている、体の形に似ているなど様々な説がある。
■ 問いかけて間を置く	
② ○ 材質は？→素焼きの陶器のものが多く。	※ プラスチックのものもある。
○ 音色は？→吹き口から息を吹き込むと、温かみのある音色が出る。	
○ 指穴の数は？→12個が多い。 (表側に10個、裏側に2個)	※ イタリアでは、10個が多い。
③ ○ リコーダーと同じような指使い。	
○ ポケットに入るくらい大きさ。	※ いろいろな形や大きさのオカリナがある。
○ 簡単な曲なら、すぐ吹けるようになります。吹ける曲が増えると、ますます楽しくなる。	
■ 質問がないか尋ねる	
○ 終わりの言葉	

実際にオカリナを演奏する

- 19 -

(7) 中学校数学における結果について

①領域ごとの調査結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

区分（中学校数学）	A（主に「知識」）の正答率		B（主に「活用」）の正答率	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	64.4	64.4	43.2	41.6
数と式	68.7	67.7	65.7	63.2
図形	62.3	63.4	40.5	39.0
関数	62.3	61.7	31.6	30.7
資料の活用	61.9	63.0	32.5	31.2

②観点ごとの調査結果の概況

区分（中学校算数）	A（主に「知識・技能」の正答率）		B（主に「活用」の正答率）	
	福岡市	全国	福岡市	全国
教科全体	64.4	64.4	43.2	41.6
数学への関心・意欲・態度				
数学的な考え方			44.1	42.8
数学的な技能	65.4	65.0	37.0	34.2
数量や図形についての知識・理解	63.5	63.9		

◆領域ごとでは、数学Aの「図形」「資料の活用」で全国平均正答率を下回っている。「関数」「数と式」は、数学A、Bともに全国平均正答率を上回っている。

◆観点ごとでは、数学Aの「数量や図形についての知識・理解」のみが全国平均正答率を下回っている。

③平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
数学A	12 : 9と等しい比の選択	93.6	93.6	0
	$5x - x$ の計算	85.0	85.3	-0.3
数学B	考察の対象を明確に捉える	80.7	78.7	2.0
	事象を数学的に表現し、意味を解釈する	70.4	67.3	3.1

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
数学A	証明の必要性和意味（対頂角）	21.4	25.8	-4.4
	数量関係を文字式に表す	23.5	22.2	1.3
数学B	映像の明るさを2倍にする理由を説明すること	11.7	11.7	0
	ポップアップカード作成の説明	22.8	21.2	1.6

④生徒と学校に対する質問紙調査の結果から

(生徒に対する質問紙調査結果)

問	「数学の授業の内容はよくわかりますか」	89.4% (全国比 -1.2)
問	「数学の問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えていますか」	72.0% (全国比 -1.2)
問	「調査問題の解答時間は十分でしたか(数学B)」	66.3% (全国比 -4.6)

(学校に対する質問紙調査結果)

問	「習熟の遅いグループに対し、少人数による指導を行い、習熟できるようにしましたか」	19.4% (全国比 -5.9)
問	「習熟の速いグループに対し、少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか」	12.5% (全国比 -7.3)
問	「生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか」	79.1% (全国比 -15.2)

◆生徒質問紙調査では、「調査問題の解答時間は十分だった」「もっと簡単に解く方法がないか考えている(数学B)」と答えた生徒の割合が全国平均を下回っている。

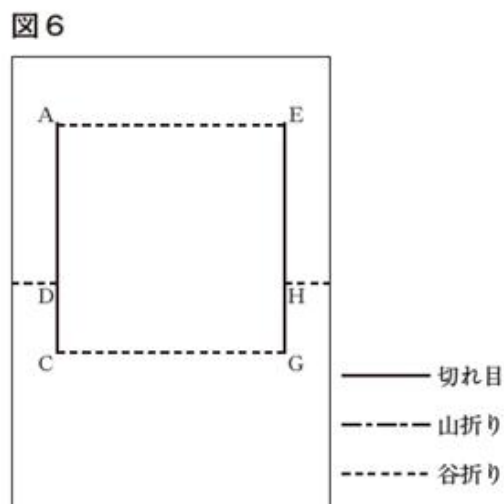
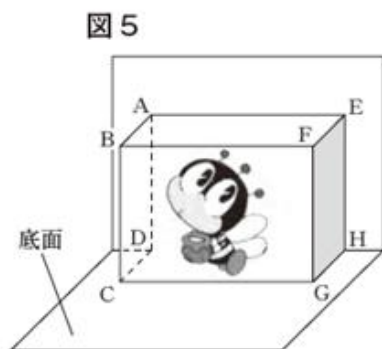
◆学校質問紙調査では、「生徒の発言、活動時間の確保した授業をしている」と回答した学校の割合が全国平均を大きく下回っている。

※中学校数学の正答率が低かった問題(数学B)

(2) 春香さんは、図5のように、絵をかく面BCGFを大きくしたいと考え、図6のように、切れ目となるAC, EGをそれぞれ同じ長さだけ上に伸ばしました。

カードを 90° に開いたとき、面BCGFが底面に対して垂直に立つようにするには、カードを開いていくときに四角形EFGHがいつでも平行四辺形でなければなりません。

このとき、点Fの位置が決まれば山折りにする線分BFをひくことができます。点Fを図6のどこにとればよいですか。点Fの位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明しなさい。



(8) 中学校理科における結果について

① 枠組みごとの結果

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示したもの

区分（中学校理科）	福岡市	全国
教科全体	54.2	53.0
主として「知識」に関する問題	65.6	63.8
主として「活用」に関する問題	49.8	48.8

② 領域ごとの調査結果

区分（中学校理科）		福岡市	全国
教科全体		54.2	53.0
第1分野	物理的領域	50.7	48.9
	化学的領域	56.8	56.2
第2分野	生物的領域	63.2	62.2
	地学的領域	47.9	46.4

③ 観点ごとの調査結果

区分（中学校理科）	福岡市	全国
自然事象への関心・意欲・態度		
科学的な思考・表現	49.8	48.8
観察・実験の技能	47.6	46.8
自然事象についての知識・理解	72.7	70.6

◆ 枠組みごとでは、「知識」「活用」とともに全国平均正答率を上回っている。

◆ 領域ごとでは、すべての領域項目で全国平均正答率を上回っている。

◆ 観点ごとでは、すべての項目で全国平均正答率を上回っている。

④ 平均正答率が高かった問題と低かった問題

（正答率が高かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
理科	天気図から風力を読み取る	82.7	77.9	4.8
	塩化ナトリウムの化学式を選ぶ	80.7	79.6	1.1

（正答率が低かった問題）

教科区分	設問の概要	市	全国	全国比
理科	雲の成因を正しく説明できる	13.1	14.5	-1.4
	音の高さの実験を計画できる	31.0	29.9	1.1

⑤生徒と学校に対する質問紙調査の結果から

(生徒に対する質問紙調査結果)

問	「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」	51.3% (全国比 -3.7)
問	「観察や実験の結果をもとに考察していますか」	63.9% (全国比 -3.3)
問	「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい(週に1回以上)行いましたか」	19.0% (全国比 -20.2)
問	「理科の勉強は大切だと思いますか」	70.8% (全国比 1.5)
問	「授業で学習したことが、将来役に立つと思いますか」	56.5% (全国比 2.2)

(学校に対する質問紙調査結果)

問	「自ら考えた仮説をもとに観察実験の計画を立てさせる指導を行いましたか」	55.5% (全国 -10.3)
問	「観察や実験のレポートの作成方法に関する指導を行いましたか」	83.3% (全国比 6.4)
問	「観察や実験の結果を分析し、解釈する指導を行いましたか」	84.8% (全国比 -6.5)

◆生徒質問紙調査では、「理科室で週に1回以上観察や実験を行った」と答えた生徒の割合が全国平均を大きく下回っている。「理科の勉強は大切だと思う」「授業で学習したことが、将来役に立つと思う」と答えた生徒の割合が全国平均を上回っている。

◆学校質問紙調査では、「仮説をもとに観察実験の計画を立てさせる指導を行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく下回っている。「観察や実験のレポート作成方法の指導を行った」と回答した学校の割合が全国平均を上回っている。

※中学校理科の正答率が低かった問題(理科)

2 若菜さんの学級では、先生が飛行機に乗ったときに撮影した写真や天気図などの資料をもとに気象について学習しました。

(1)から(4)までの各問いに答えなさい。



(3) 若菜さんは、S島の上空だけに雲ができることに疑問をもったので、資料1の図2、図3と表をもとに、その理由を下のアからエのように考えました。その理由を見直したところ、誤りに気づきました。誤りのあるものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。また、選んだものを正しく書き直しなさい。

- ア 水蒸気を比較的多くふくんだ空気のかたまりは、S島の山の斜面に沿って上昇する。
- イ 上昇した空気のかたまりが膨張し、温度が下がる。
- ウ 空気のかたまりの温度が、露点に達する。
- エ 水滴が冷やされて水蒸気になり、雲ができる。

資料1(S島に関すること)

- 図1は、1月24日に南側から撮影したS島の写真。
- 図2は、S島を撮影したときの天気図。
- 図3は、S島を撮影したときの、風の吹く方向に沿ったS島の断面図。
- 表は、S島の1月23日から1月25日までの1日の平均気温と1日の平均湿度の記録。

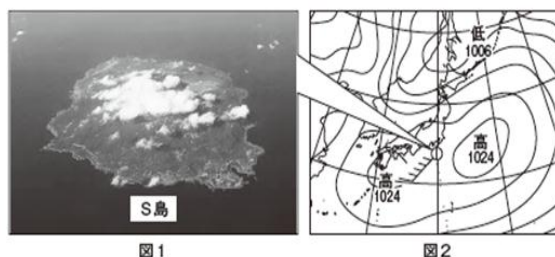


図1

図2

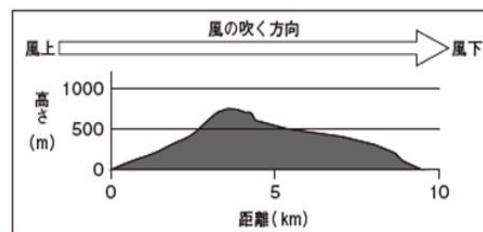


図3

表

月 日	1月23日	1月24日	1月25日
1日の平均気温(℃)	5.9	9.2	12.6
1日の平均湿度(%)	66	71	64

3. 今後の課題

- ◆平成 27 年度に平均正答率が向上した学校の状況については、26 年度に「③同程度である」や「④努力を要する」と公開した学校数の割合が高いのに対し、「①上回っている」や「②やや上回っている」と公表した学校数の割合は低い。各学校が**自校の学力課題を確実に把握するとともに、課題に応じた取組を充実させていく必要がある。**
- ◆児童生徒質問紙の結果では、「授業の内容はよくわかる」と回答した児童生徒の割合が、中学校数学以外のすべての分類で全国平均を下回った。授業の終末段階における「まとめ」と「ふりかえり」をより一層徹底する必要がある。
- ◆学校質問紙の結果から、特に発展的な学習指導が十分に行われていないことが明らかになった。補足的な学習とともに、児童生徒の力をさらに伸ばす発展的な学習を全ての学校で実施させる必要がある。
- ◆小学校算数は、B 問題だけでなく、A 問題にも課題があり、中学校数学 A においても関連する観点で全国平均正答率を下回る状況が生じている。小学校低・中学年の**早い段階から、基礎・基本の定着を図る指導をより一層強化する必要がある。**そのためには、**家庭学習や自学の充実を図るための支援も、これまで以上に必要である。**

4. 取組の方向性

(1) 各学校での取組

- ◆児童生徒一人ひとりの課題に応じたきめ細かな指導の徹底
 - ・児童生徒の学力実態の分析と課題の明確化
 - ・少人数指導や習熟度別学習の内容の充実
 - ・教育課程の見直しにより生み出す約30時間での補足的な学習や発展的な学習の充実
- ◆授業改善の3つのポイントの徹底
 - ポイント①…「教えること」と「学ばせること」を区別する
 - ポイント②…学習過程の要所で「考えを書くこと」を大切にする
 - ポイント③…学習したことの「まとめ」と「ふりかえり」を徹底する
 - ・目的を明確にした「書く」「話す・聞く」「読む」活動を行い、「考えることば」と「伝えることば」を高めるための指導の工夫
- ◆特に小学校においては、算数の基礎・基本の定着を図る指導と家庭学習の徹底

(2) 教育委員会での取組

- ◆学力向上のための教育課程の見直しと連携した学力向上の取組の推進
 - ・学力向上推進プランに中間検証を取り入れることによる P D C A サイクルでの検証と指導・助言
 - ・福岡市学習状況調査の実施時期や内容について検討改善
 - ・児童生徒の学力課題に応じて、効果的な教材や具体的な指導をもとにした補足的な学習や発展的な学習
- ◆学力向上のための指導資料を使った、学校訪問等における指導主事の指導の充実
 - ・昨年度に引き続き、学校の課題に応じて作成した指導資料や、学力向上推進プランの中間検証をもとにした各学校の課題や具体的な取組の明確化
 - ・各学校の学力課題や生徒指導上の課題に応じた学校との双方向的な協議